

令和6年10月25日

事業報告

講座名	山口ひとものがたりセミナー第1回（やまぐち大考古博からみえた、山口県3000年の歴史） （講師：阿部 来 氏）
日時・場所	令和6年10月12日（土）10：30～12：00 101研修室
参加者数	64名

1 概要

講師： 阿部 来 氏（山口県立山口博物館 学芸課主任）

演題：「やまぐち大考古博からみえた、山口県 3000 年の歴史」

阿部氏は、専門は考古学で、特に日本中世の陶磁器や都市、石造物などを中心に研究をされている。昨年山口県立博物館で開催された、「特別展やまぐち大考古博」は、阿部様が担当された。

今回のセミナーでは、その「やまぐち大考古博」のテーマに沿って、県内の古墳や遺跡の分布図などの資料を使いながら、分かりやすく解説された。

例えば、テーマの1つ「東アジア交流と弥生人の到来」についてのお話では、下関市の地蔵堂遺跡から発掘された出土品の一つに、釘のような形で頭の部分に花びらが4枚ついたような形のものがある。これは蓋弓帽（がいきゅうぼう）という、中国の高貴な身分の人が乗る馬車の、傘の装飾品であることがわかっており、この頃すでに中国と交流があったことを示しているとのことだった。その他にも、県内各地の遺跡の代表的なものについて、そこからどんなものが出土したか、またそれからということが想定できるかを、丁寧に説明され、聴講者の想像が膨らむとても興味深いお話だった。

2 写真

